

挑戦と変化

私が今回 YCE 冬季派遣に参加したのは、日本人とは物事のとらえ方の違うであろう方々との生活を通じてコミュニケーション能力を向上させ、物事を多方面から考えられるようになりたいと思ったからです。ただ、このような目的はあったものの、私はもともと英語もコミュニケーションをとることも苦手だったので、スロベニアに行くまでは大きな不安との戦いでした。

しかし、いざスロベニアに滞在すると3週間なんてあっという間で、日本に帰らずずっとここに住みたいとまで思うようになりました。この心境の変化はスロベニアに行く前の自分からすれば信じられないことではありましたが、この派遣で、スロベニアの方々との生活を通して学び、考え、実行してきたことが実となっているのだと実感することもできました。

そんなにも私に大きく変化をもたらしたものの、それは『主張をする』こと、「異文化に触れたこと」、「日本を離れたこと」の3つです。

私は、滞在中ホストファミリーに、「今の自分の気持ちを言って」と常に言われていました。何をしたいのか、どこに行きたいのか、いまどう思っているのか…これらを英語で伝えなければならないのは、私にとって非常に難しいことでした。というのも、私はもともとあまり物事をストレートに言うタイプではなかったからです。しかし、はじめのうちは戸惑ったものの、滞在2週目からは少しずつ慣れ、日本に戻る頃には何事もはっきりと言う癖がついたのか、両親や友人から「ハキハキしている」と言われるようになりました。それどころか、何事も積極的に行動してみようという気持ちがわき出てくるようになったのです。『主張をする』ことで相手にも自分の考えが伝わりより分かり合えること、そしてそれが自信となりもっと積極的にいってみようと思えるようになることを、スロベニアの方々に教えてもらいました。

また、スロベニアの方々と生活していると、スロベニアと日本の文化の違いをひしひしと感ずることも多くありました。文化が違えば考え方、物事の捉え方は当然違ってくるはずで、そこに直に触れることができたのはとても面白く良い経験でした。しかし滞在中、自分だったら、日本だったら…とってしまうことも少なからずあり、自分目線で物事を考えるのではなく、多様な考え方を取り入れていろいろな角度から物事を考えていくのがどれほど難しく、重要なことなのか考えさせられました。

そして、日本を離れたからこそ気が付くこともありました。

それは日本文化の美しさと、自分の日本に関する知識の無さです。スロベニアの方々に日本文化を伝える際、自分でも「ああ日本文化ってこんなに美しかったんだ」と思うことがありました。外に出て初めて素晴らしさに気が付くこ

ともあるとこの時実感しました。また、日本の歴史を伝えるときに自分であやふやなところがあったり、質問されても全くわからないこともあったりしました。毎日当たり前のように日本で生活しているのに、意外と身の回りのことを知らずに生きていると今回の派遣を通して知らされ、衝撃を受けました。

スロベニアでは、おいしい料理や美しい自然の数々、そして人々の優しさに存分に触れることができました。この派遣の目的が達成できたかは自分ではよくわかりませんが、得られたものは多く、確かに自分の中で変化が感じられました。今回得たものは今後にも絶対に生きてくると思うので、この経験と派遣に携わってくださったすべての方々への感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいです。

